

「わたし、いま、働いています!」

私は先天的な弱視です。支援制度を知らないまま、晴眼者と同じように社会に出ました。当時は就職氷河期、パソコンや簿記の資格を取りましたが、運転免許がないことも不利で、就職先はありませんでした。ハローワークでは「障害者手帳がないと紹介が難しい」と、医療機関では「障害者手帳を取得してもメリットはない」と言われ、ひきこもってしまいました。

この状況から抜け出したい一心で手帳を申請し、ようやく就職先を得ましたが、そこでは「受け入れてもらえなかった」のです。私は障害者雇用として採用されたのですが、職場の上司や同僚は視覚障害者への対応を認識していなかったようで、業務内容を考慮してもらえなかったり、「ミスがあつては困る」「任せられない」などと冷たく扱われ、仕事をもらえませんでした。

「迷惑だから辞めて下さい」と言われているようで、退職に追い込まれました。転職しても同じことばかりで、障害者雇用はただの人数合わせ、どこに相談しても視覚障害者への支援には出会えませんでした。

私は、視覚障害者も適切な理解と支援があれば、仕事ができると思うのです。また、このような現状と孤独に向き合っていることも知って欲しいのです。私たちは社会でのつながりを求めています。

(石川県 40代女性)

※ 視覚障害者の就労を考える際には、就職先の採用に対する考え方、また、就職後の職場定着への理解が不可欠です。「あうわ」

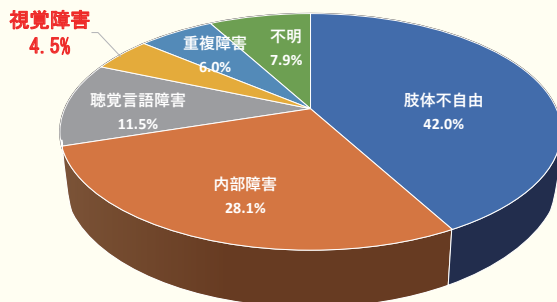


「視覚障害者の就労の現状」

「障害者雇用実態調査」によると前回の平成25年調査から雇用障害者数は増えているが、身体障害者雇用者数は、1万人減の42万3000人。

このうち視覚障害者は**1万9035人(4.5%)**であり、前回の**3万4640人(8.3%)**から半減近い雇用者数になっています。

身体障害者雇用数の内訳 (平成30年度)



「平成30年度障害者雇用実態調査」(厚生労働省)をもとに作成

就労の支援・実現

※1

「あはき」三療業について、視覚障害者の割合の減少が著しいです。1960年代までは60%以上でしたが、2000年代には30%以下にまで減少しました。この分野への晴眼者の進出が背景にあります。(2006年身体障害児・者実態調査より)

視覚障害
児童・生徒の
就労に結びつく
教育が必要です!!

視覚障害専門の
ジョブコーチの
育成をしてほしい!!

就労のための
IT 基礎知識を
学びたい!!

社会と視覚障害者が共に意識改革!!
新しい時代へと
歩き出そう!!

私たちもっと
働きたい!!

視覚障害者の
「あん摩マッサージ指圧師、
はり師、きゆう師」
(※1)(「あはき」と表記)の
立場を守りたい!!

ロービジョン(※2)
への理解を
求めたい!!

「あはき」以外の
職域を開拓し、
拡大したい!!

「あはき」以外の
職業訓練の場が
必要です!!

※2

ロービジョンの人の割合は、視覚障害者全体のおよそ88%あまりと推定されます。(2007年日本眼科医会資料より)



生活の基盤

行政・医療
との
スムーズな連携



障害者手帳
の
取得

補装具・
日常生活用具
の申請

生活支援
(家事・移動など)

障害年金
の
申請

リハビリ
テーション
(ロービジョンケアを含む)

福祉サービスの
知識獲得

「就労の実現」は
生活の基盤があつてこそです